

令和 6 年 6 月 14 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20K02310

研究課題名(和文) 社会起業による開発的ソーシャルワークの実践効果と支援体制に関する実証研究

研究課題名(英文) Empirical Research on the Practical Effects and Support Systems of Developmental Social Work through Social Entrepreneurship

研究代表者

呉 世雄 (Oh, Sewoong)

立命館大学・産業社会学部・准教授

研究者番号：00708000

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題では、社会性とビジネス性を併せ持つ社会的企業を作り上げる「社会起業」という手法を用いて開発的ソーシャルワークを展開している社会福祉組織(社会福祉法人、NPO法人など)の実践の効果を検証するとともに、社会起業を活性化するための効果的な支援体制の構築について検討を行った。まず、日本と韓国における地域課題をミッションとする社会的企業へのインタビュー調査を基に起業プロセスや開発志向の実践要素についてまとめることができた。また、日本、韓国、米国におけるタイムバンキングの実践事例を分析し、持続可能な組織運営の在り方や開発型ソーシャルワークとの類似点等について検討することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年、制度の狭間の問題や地域資源開発機能の弱さが指摘されているが、開発志向の実践は、昨今のソーシャルワークに求められる重要な実践課題であり、ソーシャルワーカーの開発的志向を高めるための具体的な実践方法論の構築が求められている。本研究を通して得られた研究成果を基に、ソーシャルワーカーの開発志向を高めるための具体的な実践論を見出すことができた。また、それを基に実践者向けの教育コンテンツを制作し、社会福祉教育の現場で活用することができ、研究の知見を実践に活かすための工夫に努めた。

研究成果の概要(英文)：In this research project, we verified the effectiveness of a social welfare organization's practice of developmental social work using a methodology called "social entrepreneurship," which creates social enterprises that possess both social and business qualities. Additionally, we examined the creation of an effective support system to revitalize social entrepreneurship. First, we summarized the entrepreneurial process and development-oriented practical elements based on interview surveys of social enterprises in Japan and Korea whose mission is to address local issues. We also analyzed practice cases of time banking in Japan, Korea, and the United States, and explored the ideal methods of sustainable organizational management and their similarities with developmental social work.

研究分野：社会福祉組織の運営管理

キーワード：社会起業 社会的企業 開発的ソーシャルワーク 開発志向のソーシャルワーク タイムバンキング  
社会福祉法人 国際比較

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

開発型ソーシャルワークとは、クライアントの潜在能力や強みの発見と開発、コミュニティへの参加、能力開発に焦点をあてる包括的な実践方法である。具体的には、エンパワーメントを実践の中心的な位置に捉え、個人や地域社会における課題解決に向けて、既存の資源の調整や活用に留まらず、社会投資や地域開発などの社会資源開発、さらには施策やシステム作りなどに向けた積極的な働きかけを追求するアプローチである。このような開発的志向の実践は、制度の狭間の問題や地域資源開発機能の弱さが指摘されている、昨今のソーシャルワークに求められる重要な実践課題であり、ソーシャルワーカーの開発的志向を高めるための具体的な実践方法論の構築が求められている。一方、社会起業は、企業活動の目的が利潤最大化ではなく、その活用自体、そしてそこから得られた利益を通して社会的ミッションを達成することを目指す、いわゆる「社会的企業」を作り上げる活動を意味する。近年は、公的福祉制度の持続可能性や官民協働の在り方、制度の狭間の問題への対処といった観点からも注目を集めており、社会福祉政策や地域福祉実践においても重要な研究課題として認められつつあるが、それをソーシャルワークの手法として捉えている研究は見当たらない。

## 2. 研究の目的

本研究は、「社会起業」という手法を用いて開発志向のソーシャルワークを展開している社会福祉組織の実践の効果を検証するとともに、社会起業を活性化するための効果的な支援体制の構築について、日韓比較の視点から検討することを目的とした。なお、本研究課題は、研究開始後に、独立基盤形成支援を受けることとなったため、研究対象やフィールドを、既存の日本と韓国に米国も加えた多国間比較研究とし、研究内容もそれに合わせて再調整を行ったうえで実施した。

## 3. 研究の方法

社会起業を活用した開発志向のソーシャルワークについては、主に日本と韓国の社会福祉組織（社会福祉法人、NPO法人など）を対象にインタビュー調査を行った。なお、コロナ禍の影響により現地調査ができない時期にはオンラインにてインタビューを実施した。次に、開発志向の組織運営や体制構築については、地域を基盤とした支え合いの仕組みとして注目されている「タイムバンキング（Time banking）」に焦点を当て、日本と米国における文献研究およびフィールドワーク、インタビュー調査を基に実践の特徴と支援の在り方について検討を行った。

なお、タイムバンキングを社会起業の関連組織として取り上げる理由は、以下の通りである。タイムバンキングは、他者に無償で提供したサービスや活動の時間を貯めて、その貯めた時間を自分が必要な時に使うことができる時間交換システムである。タイムバンキング組織は、主に地域社会の課題解決や福祉関連ニーズの解決を目指しており、また参加者の活動時間や寄付などを用いて実質的に経済活動に準ずる活動を行っているため、社会性とビジネス性を併せ持つ組織と考えられるためである。

## 4. 研究成果

### (1) 社会起業による開発志向のソーシャルワークの効果と課題

制度外のサービス提供や社会的弱者の就労支援に関わる日本と韓国の社会的企業へのフィールドワークやインタビュー調査を行った。なお、韓国の事例は、すべて社会的企業育成法に位置づけられる「認証社会的企業」を対象にしたが、日本の事例については、社会的企業を支援する制度等が存在しないことから、社会的企業と名乗っていないが、実質的に社会的企業の性質を持つと評価される事例を選定した。事例調査の結果、実践効果については、社会資源が不足する事例や制度の狭間等への介入、地域社会とのネットワークや信頼関係の構築、制度や規制の縛りのないフットワークの軽い実践、ニーズ対応型のサービス開発と運営などが、展開されやすいことが挙げられた。

一方、課題としては、日韓ともに、持続可能な運営のための安定的な財政基盤が弱いことが指摘されたが、以下のような日韓の違いも見られた。つまり、日本では、社会的企業としてのアイデンティティが社会から認められない状況や、社会福祉法人施設・社会福祉協議会などの組織ではサービス開発や独自の資金調査（ファンドレイジングなど）に対する意識の弱さが開発志向の実践の阻害要因として指摘され、法人や施設・機関におけるミッションの共有や教育活動の重要性が示唆された。一方、韓国では、社会起業や開発志向の活動に対する公的支援が得られやすい一方、政権交代などの影響を受け、頻繁に制度環境が変わることによって、むしろ事業の継続性が損なわれる恐れがあることが指摘され、支援策の継続性・連続性や、過度な制度依存の副作用について考察することができた。

### (2) タイムバンキング・システムの効果と課題

「タイムバンキング (Time banking)」の源流について、日米の比較検討を通して明らかにするとともに、日本、米国における「タイムバンク」の実践事例を対象に、それらの活動がもたらす実践的効果や課題について明らかにすることができた。米国のタイムバンキングの源流とされる Edgar S. Cahn の著書および論文、関連文献などを収集・分析し、日本のタイムバンキングとの比較検討を行った。日本のタイムバンキングは、水島照子が 1973 年に大阪市で設立した「ボランティア労力銀行」から始まり、その後、さわやか財団の「ふれあい切符」などの有償ボランティアとして展開されるが、介護保険導入後は、急激に衰退し、現在は一部の地域、団体でのみ展開されている。一方、米国では、1990 年代以降、Edgar S. Cahn らによる支援体制整備や実践理論の普及活動を皮切りに全米に広がっている。タイムバンキングは、参加者がサービスの提供者であり、利用者でもある、いわゆるコプロダクション (Co-production = 共同生産) の原理に則って運営されており、参加者のエンパワーメント、居場所づくり、ボランティアの活性化に貢献する実践として評価される。日本と米国のタイムバンキング関連団体の交流や接点については、現地調査の結果からは明確な手がかりを得ることができなかつたため、今後の課題としたい。

米国のタイムバンキングの事例調査として、「TimeBanks Org」と「Michigan Alliance of timebanks」の関係者 (CEO, コーディネーターなど) を対象にインタビュー調査を行い、活動の特徴や課題を把握することができた。主な結果は以下の通りである。タイムバンキングの実践は、時間を交換するシステムとして「貯める人」と「使う人」のバランスを維持することが、システムを維持する重要な要素である。厳密な時間交換の管理が求められると思われがちだが、実際には多くの組織が「ゆるい」ルールの中で運営されており、一定層のボランティアリズムによって維持されている側面がある。タイムバンキングの活性化のためには、コーディネーターの役割や理念共有のための教育活動が重要である。メンバーの特徴 (年齢、性別、人種、居住地域、経済水準など) を踏まえた活動内容の設定やマッチングが重要である。ニーズのマッチングは、ホームページや携帯電話のアプリケーションを用いる場合が多いため利便性は高いが、高齢の参加者は苦手意識があり活動しにくい声も多い。

今後の研究では、以上の知見を踏まえながら、日本におけるタイムバンキングの立ち上げや支援に関する実践的研究を進めていきたい。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 呉世雄	4. 巻 156
2. 論文標題 居住弱者のための包括的居住支援	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 月刊 福祉ジャーナル（韓国社会福祉協議会）	6. 最初と最後の頁 54-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 呉世雄	4. 巻 152
2. 論文標題 阪神淡路大震災と災害支援システムの構築	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 月刊 福祉ジャーナル（韓国社会福祉協議会）	6. 最初と最後の頁 54-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 呉世雄	4. 巻 161
2. 論文標題 寄付文化と共同募金会の役割	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 月刊 福祉ジャーナル（韓国社会福祉協議会）	6. 最初と最後の頁 58-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 呉世雄	4. 巻 162
2. 論文標題 介護人材不足を解決するための外国人労働者確保政策	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 月刊 福祉ジャーナル（韓国社会福祉協議会）	6. 最初と最後の頁 54-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 呉世雄	4. 巻 164
2. 論文標題 共生型サービスの実践モデルと制度化	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 月刊 福祉ジャーナル(韓国社会福祉協議会)	6. 最初と最後の頁 58-61
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 呉世雄	4. 巻 141
2. 論文標題 地域包括ケアの事例ー広島県御調町の挑戦と成果	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 月刊 福祉ジャーナル(韓国社会福祉協議会)	6. 最初と最後の頁 60-63
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 呉世雄	4. 巻 142
2. 論文標題 地域包括ケアの制度化過程と特徴	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 月刊 福祉ジャーナル(韓国社会福祉協議会)	6. 最初と最後の頁 62-65
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金吾燮・呉世雄	4. 巻 143
2. 論文標題 地域包括ケアの事例ー埼玉県和光市の成果	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 月刊 福祉ジャーナル(韓国社会福祉協議会)	6. 最初と最後の頁 58-61
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 呉世雄	4. 巻 144
2. 論文標題 地域包括ケアと在宅サービス	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 月刊 福祉ジャーナル(韓国社会福祉協議会)	6. 最初と最後の頁 60-63
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 呉世雄	4. 巻 147
2. 論文標題 ふるさと納税制度の現状と課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 月刊 福祉ジャーナル(韓国社会福祉協議会)	6. 最初と最後の頁 58-61
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 呉世雄	4. 巻 148
2. 論文標題 引きこもりの長期化・高齢化と8050問題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 月刊 福祉ジャーナル(韓国社会福祉協議会)	6. 最初と最後の頁 58-61
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 呉世雄	4. 巻 149
2. 論文標題 COVID19と自殺問題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 月刊 福祉ジャーナル(韓国社会福祉協議会)	6. 最初と最後の頁 64-67
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 呉世雄	4. 巻 150
2. 論文標題 子ども食堂－触れ合いと参加による地域福祉	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 月刊 福祉ジャーナル（韓国社会福祉協議会）	6. 最初と最後の頁 54-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 呉世雄	4. 巻 151
2. 論文標題 地震災害と社会福祉 - 東日本大震災から10年	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 月刊 福祉ジャーナル（韓国社会福祉協議会）	6. 最初と最後の頁 52-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 呉世雄	4. 巻 37
2. 論文標題 コロナ禍が介護老人福祉施設の地域貢献活動に及ぼした影響 - 2016年と2022年の実態調査を基に	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 日本の地域福祉	6. 最初と最後の頁 87-98
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 呉世雄
2. 発表標題 日本における社会福祉法人制度の運営とアイデンティティ確保
3. 学会等名 2022年ソウル福祉フォーラム・ソウル市社会福祉協議会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 呉世雄
2. 発表標題 日本における孤独死の現状と対策
3. 学会等名 韓国社会保障情報院2022年度学術セミナー・韓国社会保障情報院（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 呉世雄
2. 発表標題 韓国における社会的経済の展開と可能性－仕事づくりから福祉のまちづくりへ
3. 学会等名 韓日高齢者福祉研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 富田絢子・呉世雄
2. 発表標題 在宅介護における家族介護者の介護負担感要因
3. 学会等名 第33回近畿地域福祉学会和歌山大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 呉世雄
2. 発表標題 韓国における社会的企業の展開と新たな可能性－仕事づくりから福祉のまちづくりへ
3. 学会等名 東京都ソーシャルファーム・セミナー（招待講演）
4. 発表年 2021年



1. 発表者名 呉世雄
2. 発表標題 韓国の社会的企業育成政策の動向と課題－社会的企業育成法を中心に
3. 学会等名 東京都ソーシャルファーム・セミナー（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 呉世雄
2. 発表標題 第4次産業革命による社会福祉のパラダイム転換
3. 学会等名 韓国福祉経営学会 国際学術大会（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Sewoong Oh
2. 発表標題 Organizational Factors for Wasteful Work and Their Effects in Japanese Nursing Homes: Focusing on Organizational Culture and QWL of Care Workers
3. 学会等名 Society for Social Work and Research 2024 Conference（国際学会）
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 宮城 孝/日本地域福祉学会地域福祉と包括的相談・支援システム研究プロジェクト【編著】（呉世雄）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 319
3. 書名 地域福祉と包括的支援システム 基本的な視座と先進的取り組み	

1. 著者名 丹波 史紀/石田 賀奈子/黒田 学/長谷川 千春【編著】(呉世雄)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 260
3. 書名 たのしく学ぶ社会福祉－誰もが人間らしく生きる社会をつくる	

1. 著者名 蔡ヒョンタック、林宇鉉、呉世雄、羅 珉京	4. 発行年 2021年
2. 出版社 大邱社会福祉法人協会	5. 総ページ数 134
3. 書名 大邱地域の社会福祉法人の事務局強化方案	

〔産業財産権〕

〔その他〕

研究基盤整備の追加配分を用いて、研究課題に関連する研究対象やフィールドを、既存の日本と韓国に米国も加えた多国間比較研究として拡大展開することができたこと、また新たな国際比較研究のためのネットワークを形成することができたことは大きな成果である。

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関

韩国	釜山大学校			
米国	University of Michigan			